

## ■ 議題② 新駅客流量に関する増加戦略の取組に向けて

### 1 協議会での主な意見（資料 3 - 2）

- (1) 戦略の議論の必要性について … 8 件
  - (2) ターゲットについて
    - ① 目的別 … 3 件      ② 地域別 … 8 件      ③ その他 … 1 件
  - (3) 駐車場の整備について … 3 件
  - (4) その他 … 10 件
- (参考) 第 3 回協議会における J R 北海道の意見

⇒ 協議会でいただいた様々な御意見を上記のとおり分類した。

今後、さらなる御意見を伺いながら、そこから効果的な意見をピックアップしたい。

### 2 全国新幹線路線図（資料 3 - 3）

- ・ 全国の新幹線駅の状況について、今後の議論に必要と思われる基本的事項をとりまとめた。
- ⇒ 全便停車駅は政令市または、県庁所在地となっている。

### 3 東北新幹線、北海道新幹線の運行本数・停車駅等について（資料 3 - 4）

- ・ 現行ダイヤ及び新函館北斗～札幌間開業時におけるダイヤの事務局試案を用いて、具体的にイメージを持った上で議論を展開できないかと考えている。

⇒ ① 実際のダイヤは開業の半年ほど前にならないと判明しないため、イメージが掴めず戦略を立てづらいと考え、試案を作成した。

- ② この試案では、北海道新幹線全線開業後における札幌駅までの片道運行本数を現行の新青森駅と同数の 21 本と想定した。

(交通政策審議会 整備新幹線小委員会の国交省鉄道局資料では、片道 17 本と試算)

- ③ 札幌駅 21 本の場合における新小樽（仮称）駅の停車本数は、現行の乗車客数が同程度の駅（二戸、七戸十和田）の停車本数や全便停車駅の手前駅（七戸十和田、木古内）の停車割合を参考に 13 便が停車すると想定した。

- ④ なお、21 便中 8 便が通過することになると、ほとんどの速達型が停車しない可能性がある。

- ⑤ したがって、停車便数を最大限増加させるため、利用者増加戦略を立てることが必須である。(目標値の例：90%の停車率がある八戸駅の乗降客数 約 7,000 人を旨す)

### 4 鉄道客流量予測の算出について（資料 3 - 5）

- ・ 本市の鉄道客流量予測においては、関東からの利用客が多いが、そのほとんどが飛行機からの転換利用者であり、従前からの市内の交流人口の増加には結びつかない可能性がある。

増加する交流人口としては、北海道新幹線の札幌開業による誘発効果が見込まれる道南及び東北地域からの利用者である。

⇒ 交流人口の増加による消費需要の拡大が市内に経済波及効果をもたらすことから、例えば、利用者ターゲットを当該地域に絞ることにより、効果的な戦略を立案することが可能とされないか。

### 5 今後の戦略議論の進め方について

- ・ 協議会での意見を踏まえ、正副会長レベルの会合等により議論の方向性や枠組みを決めていきたい。

上記について、御意見をいただきたい。